

## 21. ヒメカンアオイ（ウマノスズクサ科カンアオイ属）

*Heterotropa takaoi* (F.Maek.) F.Maek.

2015年2月

山地や丘陵地の林内に生育するが、ときにため池や田んぼの堤体にも見られる常緑の多年草です。黒紫色を帯びた茎は地中または地表を這い、節間が短く、葉の落ちた跡が節くれだち、細い多肉根を出します。茎の先端または途中から2~3個の鱗片葉と1~数個の普通葉を付けます。普通葉は長い柄があり、腎円形または広卵形で長さ5~8cm、幅4~7cm、鈍頭で基部は心形で湾入部があります。表面は淡色の斑が入るが、ときに無地の個体もあります。斑は様々で同所的にも同じものがないような変異に富んだ種類です。花は2月から3月に淡紫色の径1.5cmほどの筒形あるいは鐘形花を地際に咲かせます。種子は長さ3mmほどで、附属体にアリを誘引する物質を含むエライオソームがあり、アリ散布植物のひとつと考えられます。分布は本州、四国で、兵庫県では中南部地域に多く、姫路市においても点在します。まれに葉が小型で円形になるゼニバサイシタイプも見られ、ヒメカンアオイの多様性が伺えます。

ヒメカンアオイは栽培が容易で、野生個体選別の園芸品種も多く、黒色の抜けた緑花種や八重咲種があり、さらには葉のさまざまな濃淡斑を楽しむ古典園芸のひとつとなっています。

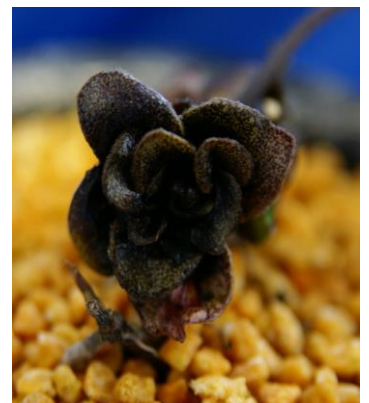
また、春の女神と呼ばれるギフチョウの食草としても知られており、地域によっては保護の対象となっています。



ヒメカンアオイ草姿



ヒメカンアオイの花



八重咲種